

第 19 回知床五湖登録引率者審査部会議事概要

日時：平成 26 年 1 月 16 日 14:00～16:30

場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

出席：松永・山岸（環境省）、岡田・高橋（斜里町）、梅嶋（オホーツク総合振興局）、梅沢（ウトロ自治会）、代田（斜里観光協会）、岡崎（ガイド協議会）、若月・岩山（引率者代表）、寺山（エコツアー推進協）、古坂（自然公園財団）、葛西・秋葉・能勢・佐藤（知床財団）

<概要>

利用適正化計画改定を受け、来期のヒグマ活動期の具体的な運用について議論。ツアースケジュールは、10 分間隔を基本とし、昼の時間帯を 20 分間隔とする案（B 案）に賛意が集まった。小ループの導入に関しては、当日受付専用のツアーとし、1 日 4 本程度の実施が現実的の認識で一致。2 湖展望地の利用は不可となった。また、ツアー料金、ツアー時間の設定等については決着せず、当日受付カウンターの実施体制や担当引率者の課題と併せて次回に議論予定。

登録引率者の養成に関しては、新規養成研修カリキュラムの見直しと既存の引率者も含めたスキルアップの方法を議論。具体的なカリキュラムと募集方法については、次回改めて事務局から案が出される予定。

（1）平成26年度のヒグマ活動期の運用について（●：主な意見、✓：決定事項）

大ループ、小ループのツアー枠の設定

- ツアー枠をより多く設定した B 案が望ましい。2 コース同時出発が可能であればなおよく、せめて試行実験を実施すべき。
- 2コース同時出発は、五湖FHの円滑な運営が確保できない可能性がある。
- B案が五湖FHで対応できるギリギリの許容範囲。小ループの設定時間もわかりやすい。
- 小ループを担う引率者の確保が課題。1日1人の引率者で対応可能か検討が必要。
- 当日専用枠を大ループにおいても設定することは、担当引率者の確保の面で現実的でない。
- ✓ 平成 26 年度は、2 ルート同時出発は実施しない。将来、同時出発も可能とする設定にとどめる。
- ✓ 小ループの実施は当日受付専用とし、大ループの当日受付枠は設定しない。タイムテーブルは B 案を基本とし、さらなる検討を進める。

小ループツアーの料金、時間、2 湖展望台の使用

- ツアー料金は手数料を含め 3500 円程度が事業所としての採算ラインと考える。事業として運営可能な料金設定とせざるを得ない。料金設定は持ち帰り検討したい。
- 利用者にとってわかりやすいよう、料金や引率時間は統一すべき。3000 円代は高い。高架木道はガイドしないことで時間を短縮し、料金を安くするという考え方もある。
- 利用者にとってわかりやすいのは、レクチャー含めて 90 分である。
- 植生期の小ループツアーの経験から、レクチャーを含めて 90 分の設定は短い。

- 二湖展望地の利用を強く希望する。二湖展望地の人気はとても高い。2 時間に 1 本程度の設定ならば、すれ違いに問題はない。
- 別の場所に展望のよい場所を確保する代替案はどうか。
- T 字路のヒグマを人で挟むことを避けるために、大ルート優先の利用を検討してはどうか。小ルートツアーは T 字路前で一時停止し、大ルートツアーへ無線連絡してから進むルールはどうか。
- 安全性と満足度確保のために、交互通行とならないようなコースの付け替え提案する。植生期もヒグマに遭遇する可能性はあるため、抜本的な解決策はコースの変更である。
- 今回の制度改定は、安全を前提に人数などの規制緩和を実施する。コースの付け替えと利用適正化計画の改定を同時に実施することは困難。本年度は、計画の改定を優先し、コースの付け替えは新計画での運用実績を積んだ上で検討すべき。
- 昨年はヒグマ出没が少なく、小ルート実験においても安全性は未検証である。そのような状態で、未経験の新規引率者が二湖展望地を利用することは安全面に關わる可能性があるのではないか。
- ✓ 平成 26 年度は小ルートツアーにおいて二湖展望地は利用しない。ヒグマ安全対策上の問題も含め、段階的に利用を検討する。
- ✓ ツアー料金は 2000 円台から 3000 円台の幅で検討する。担当引率者の確保等、小ルート受け入れ態勢の議論を進める。ツアー時間は、レクチャーも含め 90 分程度とする。
- ✓ 2 コースが一部で重複し、場合によってはヒグマを挟み込む可能性があるため、五湖におけるヒグマのリスク管理上の課題として残っていること、コースの付け替えが解決のための選択肢の 1 つであることについて共有した。

追い越し時の基本的ルール

- ✓ 傷病者、体調不良、悪天候時は追い越しを例外的に認める。
- ✓ 追い越し時は本部に無線連絡を行う（追い越し理由は述べなくてよい）。

小ルートの広報

- ウトロのホテルなどに小ルートは予約できない点を事前に伝える必要がある。
- 別途のチラシは作成せず、一つのパンフレットに知床五湖の情報は全て集約すべき。
- ✓ 既存のパンフレットに情報を追記し、HP、地域宿泊施設、観光施設等において周知する。周知内容は簡便な表現とし、別途チラシ等の作成・配布などは行わない。

(2) 登録引率者のスキルアップ及び新規養成研修について (●: 主な意見、✓: 決定事項)

- 他者からの監督がないため、効果が低いと考えられる自主引率（研修 G）は廃止とし、インターン研修（研修 D）を拡大すべき。
- インターンによる同行だけでは統率技術は向上しない。統率技術を向上させるためには、やはり自らが引率する必要がある。
- 現在の制度を維持し、発展させるためには、毎年、引率者を供給し続ける必要がある。しかし、現在のカリキュラムでは、知床近傍の人以外は対象とならず、制度が先細りする懸念が

ある。

- 地元のホテル関係者等が兼業で引率できるようなカリキュラムだとよい。
- 外部の人も受験しやすいよう集中講座を提案する。研修 A・B・C・E・F を 3 泊 4 日で実施、残りは別日に行く。研修 E・F はケーススタディミーティング（CSM）と同日とし、試験も研修日に含める。DG は受験者によって異なる。
- 集中講座は、初日に研修 D・B を実施。2～3 日目は研修 D・C、最終日も研修 D を行う。CSM の参加に加え、自主引率（研修 G）の対象地区を知床以外に設定してはどうか。
- 受験のしやすさの工夫と、その後に合格者が戦力なる点は別問題。
- 担い手育成に関しては、研修内容を軽くしても、ガイドとして定着しない恐れが強い。
- 仮に 100 人受験し、その後、10 人定着するならばよいという考え方もある。この制度が潜在的なガイド希望者を発掘するかもしれない。
- 既存の引率者のスキルを標準化するため、「自身のツアー引率者を同行させる研修」と「既存の引率者のツアーへ同行する研修」を毎年各 1 回ずつ義務付けることを提案する。実施時期は、ヒグマ期に限定しない。
- インターン研修については、引率技術を秘匿したいと考える引率者もいる。
- ✓ 自主引率研修、インターン研修のあり方について引き続き検討を進める。
- ✓ 研修プログラムのスリム化、合宿形式での実施等については、来年度の適用が可能かどうか検討を継続する。

(3) その他（●：主な意見、✓：決定事項）

トイレブースについて

- 設置は決定ではない。トイレへの移動時のヒグマ対応をどうするかという整理もある。まずは、設置場所の検討を開園前に行いたい。設置時期は今シーズンには間に合わない可能性がある。
- ブースではなく、場所の選定にとどめてはどうか。
- ブースの設置は、羅臼湖のように遊歩道わきの位置で設置してはどうか。
- ✓ トイレブース設置は、引き続き対応検討。

知床五湖を視察した町議からの意見

- 「利用者に無関係な遊歩道の地点番号が目立ちすぎている。遊歩道内の看板類の老朽化が激しい、みすぼらしい。遊歩道と高架木道の接続部の木柱は圧迫感がある。低くすべき。」等の意見があった。先駆的な制度で運用している場として相応しい整備が必要。

次回・今後の予定

2 月下旬に次回審査部会を開催予定。ヒグマ活動期の具体的な小ループツアーの実施体制と、引率者のスキルアップ及び新規養成カリキュラム内容を決定する予定。